

令和元年6月24日現在

機関番号：22304

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11795

研究課題名（和文）皮膚排泄ケア認定看護師の訪問看護師との同一日訪問の実践知普及による褥瘡対策の推進

研究課題名（英文）Promotion of measures for bed sores by provision of practical knowledge on provision of home care by a Certified Nurse in WOC Nursing visiting the patient on the same day as the visiting nurse

研究代表者

飯田 苗恵 (Iida, Mitsue)

群馬県立県民健康科学大学・看護学部・准教授

研究者番号：80272269

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、褥瘡対策に関する訪問看護師の学習ニーズ調査と調査結果を踏まえた皮膚・排泄ケア認定看護師による継続教育研修計画の作成・実施・評価、これらを踏まえた講演会開催の構成とした。学習ニーズであった褥瘡予防と治癒に活かせる評価方法や創傷ケアに関する知識、実践可能なケア方法の個別化等を踏まえ、全7回の継続教育研修を計画・実施・評価した。実践知普及の講演会を企画、最新の研究成果、認定看護師によるコンサルテーション活動（病院の立場から/在宅の立場から）を開催、130名の参加を得、成果報告書を配付した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、訪問看護師等への褥瘡対策の継続教育プログラムを作成、研修を実施し啓発することで、訪問看護ステーションの褥瘡の有病率、発生率改善の可能性がある。地域に特有の褥瘡対策や組織外へのコンサルテーション活動のための実践方法を伝授することで、病院に在籍する皮膚・排泄ケア認定看護師の訪問看護師との同一日訪問の推進に繋がる。病院に在籍する皮膚・排泄ケア認定看護師と訪問看護師との同一日訪問の推進をとおして、各病院の日常生活圏域を単位とした地域包括ケアシステムの構築に繋がる。地域包括ケアシステム推進において、病院に地域医療の中核としての役割が期待でき、地域医療のあり方に資すると考える。

研究成果の概要（英文）：This study were as follows: assessment of the learning needs of visiting nurses to the management of bed sores, preparation/implementation/evaluation of a continuing education training plan by Certified Nurse in Wound, Ostomy and Continence Nursing (hereinafter called CN) on the basis of the results of the assessment, and organization of a seminar by the CN for nurses to provide practical knowledge to them based on progress of the training plan. The learning needs of the visiting nurses included methods of evaluation for the prevention and treatment of bed sores and knowledge about wound care, and individualization of practicable care methods. Based on these needs, a total of seven continuing education training programs were planned, implemented, and evaluated. Lectures by CN for providing practical knowledge were planned, the latest study results were presented, and consultation activities were provided by the CN. A total of 130 people attended, and a progress report was handed out.

研究分野：在宅看護

キーワード：皮膚・排泄ケア認定看護師 褥瘡 専門性の高い看護師との同一日訪問 訪問看護 地域包括ケアシステム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本褥瘡学会の実態調査委員会の報告(竹田 2011)によると療養場所別の褥瘡有病率、褥瘡推定発生率は、訪問看護ステーションが、5.45%、4.40% (参考: 一般病院 2.94%、1.40%) と最も高かった。今後、ますます在宅での褥瘡対策を要することが想定される。

病院における褥瘡ケアの質保障は、褥瘡対策の要件に基づき、計画を立て、当該計画を実行する仕組みは「褥瘡患者管理加算」、診療科を跨いで褥瘡ケアを実施するための適切な知識・技術を有する専従の褥瘡管理者(看護師等)が総合的な褥瘡対策を継続して実施する仕組みは「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」として診療報酬に反映されている。さらに2012(平成24)年4月の診療報酬改定で、「褥瘡患者管理加算」については入院基本料に含まれることになった。

地域においては褥瘡ケアへの質保障の仕組みが開始されたばかりであり、2012(平成24)年4月の診療報酬の改定により、効率的かつ質の高い訪問看護の推進のため、病院の認定看護師が訪問看護師と同一日に訪問した場合「在宅患者訪問看護・指導料(専門の研修を受けた看護師)」として、訪問看護ステーションの認定看護師が訪問看護師と同一日に訪問した場合「訪問看護基本療養費(専門の研修を受けた看護師)」として診療報酬が新設された。2014(平成26)年4月には、在宅における褥瘡対策を推進するため、多職種から構成される褥瘡対策チームによる褥瘡ケアについて評価を行う「在宅患者訪問褥瘡管理指導料」が加わった。

在宅療養者への認定看護師による褥瘡ケアの先行研究では、病院に在籍する認定看護師と訪問看護師との同一日訪問のニーズや実施状況に関する調査(兼子ら 2014, 南ら 2014, 門田ら 2014)はあるが、訪問看護ステーションに在籍する認定看護師による同一日訪問(他事業所への相談活動)の組織的な実践による報告は筆者らの共同研究(岡部ら 2014, 飯田ら 2011)のみである。

現在、全国で訪問看護ステーションに在籍する認定看護師は14人と少ないが、共同研究先の訪問看護ステーションでは、2007年7月に看護師1名が認定看護師資格を取得した。直後より認定看護師による他事業所への相談活動(同一日訪問を含む)を開始し、現在まで組織的な了解を得て継続している。

以下は、認定看護師をコンサルタント、褥瘡保有者をクライアント、クライアントを担当する看護師をコンサルティとして説明する。褥瘡管理データベースには、2008年6月から、現在までの全データが保存されている。岡部ら(2014)によると2008年6月~2010年12月の48人の電子媒体記録の分析から、コンサルティの初回相談は、薬剤の選択、局所ケア方法の順で多く、コンサルタントの提案は、スキンケア方法、除圧・減圧の方法等であった。コンサルティの相談内容とコンサルタントの提案内容の違いは、褥瘡ケアの継続教育の必要性への示唆と考えられた。また、「褥瘡専門訪問看護・指導料」に関連した調査(南ら 2014)では、病院の認定看護師と訪問看護師との同一日訪問について、病院の許可ありは40%、そのうち実施ありは38%と制度への理解や活用が進んでいないこと、同行訪問の成功例やシステム構築のノウハウの情報提供の希望が示されていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、褥瘡対策に関する訪問看護師等への継続教育方策の検討および専門性の高い看護師と訪問看護師による同一日訪問の実践方法を伝授することにより、地域における褥瘡対策を推進することである。

3. 研究の方法

本研究は、地域における褥瘡対策に関する訪問看護師の学習ニーズ調査と調査結果を踏まえ

た認定看護師による継続教育プログラム(案)作成、実施・評価、これらを踏まえた実践知普及のための講演会開催の構成とした。

1) 調査1:「褥瘡ケアに関する訪問看護師の学習ニーズ調査」

(1) 研究対象

研究対象は無作為標本抽出法により選出された全国の訪問看護ステーション2,000ヶ所の訪問看護師2,000名とした。

(2) 研究方法

方法は、郵送法による無記名自記式質問紙調査により対象者の基本属性、褥瘡ケアの知識および学習ニーズを調査した。知識と学習ニーズの分析は項目毎に記述統計を行い、学習ニーズへの属性等による2群間の差はMann-WhitneyのU検定、3群間以上の差はKruskal-Wallis検定を行った。自由記載は内容の類似性により整理した。

(3) 倫理的配慮

所属施設の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

2) 調査2:「皮膚・排泄ケア認定看護師による在宅での褥瘡予防・管理の継続教育研修の実施・評価」

(1) 研修計画

研修計画は以下のとおり、皮膚・排泄ケア認定看護師が在籍する訪問看護ステーションに研修を委託した。

スキンケアと基本的な褥瘡局所ケア(講義・演習)

在宅における褥瘡・創傷ケア:薬剤の選択(講義・演習)

在宅における褥瘡・創傷ケア:創傷被覆材の選択(講義・演習)

体位変換とポジショニング・体圧分散マットレスの選び方(講義・演習)

在宅褥瘡ケアに活用できるポジショニング(演習)

在宅褥瘡ケアにおける栄養管理:栄養状態評価(講義・演習)

在宅褥瘡ケアにおけるアセスメントツールの活用:リスクアセスメントと褥瘡状態評価(講義・演習)

(2) 研究対象者

研究対象者は、ホームページにて、上記の研修計画への参加を希望する訪問看護を实践する看護職を募集した。研修は、1回15名を募集し、延べ120名が参加した。

(3) 研究方法

方法は、自記式質問紙調査を実施した。研修受付時、質問紙を封筒に入れ手渡し、回答の有無に関わらず、会場を退出時に封筒ごと回収箱にて回収した。分析は、得られたデータを、項目毎に記述統計及び、自由記述についてとりまとめ、研修の有効性と課題について検討した。

(4) 倫理的配慮

所属施設の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

1) 調査1:「褥瘡ケアに関する訪問看護師の学習ニーズ調査」

(1) 結果

回収数512名(回答率26.5%)。対象者の訪問看護経験年数は平均8.8年(SD=5.9)。所属施設

は半数以上が 5.5 人未満で、褥瘡を有する利用者は平均 3.7 名(SD=6.5)であった。知識項目で回答の割合が 50%以上はスキンケア、圧再分配、多職種連携等であり、学習ニーズ項目で回答の割合が 50%以上は褥瘡状態評価、栄養状態評価、局所ケア方法、創傷ケア、在宅褥瘡症例検討等であった。学習ニーズへの属性等による傾向は、訪問看護師経験年数 5 年未満群と以上群の差で 19 項目、事業所に褥瘡を有する利用者なし群とあり群の差で 4 項目等に有意差を認めた。

(2) 考察

訪問看護師は知識があると回答した項目は、生活視点での看護や多職種間をケアマネジメントする訪問看護の特徴が現れていると考える。学習ニーズは予防と治癒に活かせる評価方法や創傷ケアに関する知識、実践可能なケア方法の個別化等であり、経験年数等で学習ニーズに差があることが示唆された。

2) 調査 2 : 「皮膚・排泄ケア認定看護師による在宅での褥瘡予防・管理の継続教育研修の実施・評価」

(1) 結果

各研修会の回収率は 86.7~100%、研修参加者の年齢は、20~60 歳までで、すべての回で 40 歳代の者が多かった。褥瘡予防・管理に関する研修を受けたことがない者および在宅褥瘡保有者のケアの経験がない者は各回において約 3~7 割を占めた。全体的な満足度は、かなり当てはまる、当てはまるを含めると各回において 94.4~100.0%であった。自由記述の内容は以下のとおりであった。

質問されたこと

- ・かぶれにくいテープについて
- ・褥瘡周囲の浸軟の予防方法
- ・スキンケアのケア方法
- ・臀部の褥瘡への便汚染の予防方法
- ・ポジショニング用品など日常物品の代用品での使用方法、
- ・外用薬の適切な使用量、スプレー薬の距離
- ・いざりによる褥瘡やおむつのギャザーにより治癒しにくい褥瘡への対応
- ・側臥位を好む療養者の耳介部褥瘡の除圧方法
- ・便汚染・尿汚染の予防方法
- ・エアマットを敷きたがらない療養者への対応
- ・側臥位を好む・腰痛がある療養者へのエアマットの選定方法
- ・エアマットのお手入れ(汚れの拭き取り)や尿臭の対処方法
- 研修後、実践で活用できそうなこと
- ・スキンケア方法、テープの貼り方剥がし方、臀裂部のテーピング方法
- ・ポケットの洗浄・計測方法
- ・褥瘡の浸出液の量、感染やポケットの有無等に応じた薬剤
- ・急性期・慢性期の創傷被覆材の適応方法
- ・状況に応じたマットレスの提案
- ・ポジショニングでの背抜きの方法
- ・カロリーやタンパク質のちょい足し方法
- ・褥瘡部分の写真撮影方法
- ・ブレードスケール、DESIGN-R の活用方法

研修後、実践が難しいと思うこと

- ・適切な薬剤や被覆材が判断できても医師への処方相談
- ・経済的な背景による適切なものの使用や購入
- ・新たな知識のステーション内や支援チームでの共有

(2) 考察

参加者の質問や感想から、地域における褥瘡ケアの看護実践には、褥瘡ケアに関する基本的で詳細な知識とともに、長期療養上の生活や生計を背景にした応用された実践へのニーズがあることが推察される。また、参加者が研修内容を実践する際には、療養者・家族や医師、支援チーム内での了解や調整が必要であり、この部分に困難を感じている記載が多かった。地域におけるさらなる褥瘡対策の推進には、褥瘡ケアに関する最新の知識や技術、生活や生計を踏まえた技術の応用(個別化)例、療養者・家族や医師・支援チームを巻き込みながら実践する問題解決力が融合された実践知の普及が必要であると考えられた。

3) 実践知普及のための講演会の開催

講演会は、高崎健康福祉大学看護実践センターとの共催として企画、最新の研究成果(真田弘美教授) コンサルテーション活動(病院の立場から: 間宮直子氏/皮膚・排泄ケア認定看護師、在宅の立場から: 岡部美保氏/皮膚・排泄ケア認定看護師)により開催し、130名の参加者に、成果報告書(継続教育研修プログラム・研修内容・アンケート結果及び同一日訪問実施のための契約書等の関連資料)を配付した。

102名からアンケートの回答を得、大変満足・満足合わせて100%であった。自由記述からも、褥瘡ケアに関する最新の知識や技術、生活や生計を踏まえた技術の応用(個別化)例、療養者・家族や医師・支援チームを巻き込みながら実践する問題解決力等に対する満足や共感、期待、課題などが表現されており、実践知へのさらなるニーズが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び研究協力者には下線)

[学会発表](計5件)

岡部美保: 皮膚・排泄ケア認定看護師による訪問看護師への同行訪問から「価値に基づく医療」を考える, 第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会(シンポジウム1価値に基づく医療について考える WOC領域における活動で実践していること), 2018.5. 札幌市

岡部美保: WOC訪問看護師として在宅褥瘡ケアへの関わり, 第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会(理事会企画3「WOCが地域に出向くノウハウを教えます」), 2017.6. 千葉市

岡部美保, 棚橋さつき, 飯田苗恵, 友松幸子: 褥瘡ケアに関する訪問看護師の学習ニーズ, 第18回日本褥瘡学会学術集会, 2016.9. 横浜市

岡部美保: 栄養療法を弊害するもの - 在宅における栄養法のさらなる深化を目指して -, 第19回日本病態栄養学会年次学術集会(パネルディスカッション5), 2016.1. 横浜市

岡部美保: 訪問看護ステーションの皮膚・排泄ケア認定看護師が相談窓口となり、在宅褥瘡保有者のもとへ訪問看護師と同行するシステムの構築とその成果, 第24回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会(会長企画3「私はこうしている在宅褥瘡ケア編」), 2015.5. 千葉市

〔その他〕

報告書（計1件）

飯田苗恵, 棚橋さつき, 佐々木馨子, 鈴木美雪, 新井明子, 田村直子, 福島昌子, 岡部美保 :
地域における褥瘡対策推進のための実践知の普及 - 皮膚・排泄ケア認定看護師による在宅での褥瘡予防・管理の継続教育研修の実施・評価 - 「研修プログラム・研修内容・評価報告書」,
平成 27-30 年度科学研究費補助金 < 基盤 C > 成果報告書, p1-93, 2019.2

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：棚橋 さつき、ローマ字氏名：Tanahashi , Satsuki

所属研究機関名：高崎健康福祉大学、部局名：保健医療学部看護学科、職名：教授

研究者番号：3 0 4 0 6 3 0 0

研究分担者氏名：佐々木 馨子、ローマ字氏名：Sasaki , kyoko

所属研究機関名：群馬県立県民健康科学大学、部局名：看護学部看護学科、職名：助教

研究者番号：2 0 3 3 4 1 0 4

研究分担者氏名：鈴木 美雪、ローマ字氏名：Suzuki , Miyuki、

所属研究機関名：群馬県立県民健康科学大学、部局名：看護学部看護学科、職名：講師

研究者番号：9 0 5 5 4 4 0 2

研究分担者氏名：新井 明子、ローマ字氏名：Arai , Akiko

所属研究機関名：高崎健康福祉大学、部局名：保健医療学部看護学科、職名：講師

研究者番号：3 0 3 4 4 9 3 0

研究分担者氏名：田村 直子、ローマ字氏名：Tamura , Naoko

所属研究機関名：高崎健康福祉大学、部局名：保健医療学部看護学科、職名：講師

研究者番号：0 0 5 9 3 7 1 6

研究分担者氏名：福島 昌子、ローマ字氏名：Fukushima , Masako

所属研究機関名：群馬県立県民健康科学大学、部局名：看護学部看護学科、職名：講師

研究者番号：2 0 3 5 2 6 1 9

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：岡部 美保、ローマ字氏名：Miho, Okabe

所属機関名：高崎健康福祉大学訪問看護ステーション

職名：管理者 / 皮膚・排泄ケア認定看護師